

生涯にわたって 社会のいたるところで学ぶための方法序説

地域の市民力と人的資本

佐藤 克宏

提案…人的資本としての市民力を一緒に考えてみませんか？

まちを動かす関係性（地域エンジニアメント）

こんにちは。宮城県南部に位置する角田市から、生涯学習課の佐藤克宏です。

まちを歩けば、花壇を整える人、地域行事を支える人、学校で子どもたちに声をかける人がいます。その小さな営みの連なりが、まちを動かしていることを感じるができます。

「人的資本経営」という言葉を目にすることが増えました。企業では「人」に対する資本としての見方をより強めていることの一つの表れだと感じています。では、まちはどうでしょうか。

社会教育の現場を見つめると、人と人が関わり合い、そこから新しい挑戦や学びが生まれている。それは、地域における「エンジニアジメントの醸成」そのもの

のであり、まちの未来を動かす「関係の熱量」と言えます。

チャレンジデー…関係と健康（集団効力感）

角田市では、「チャレンジデー」が行われています。この日は、角田市にいる

全ての方に15分以上身体を動かすことを呼びかけ、日常生活に運動を取り入れるきっかけにしたいと大きく入ります。市内様々な場所で行われます。学校や地域ではもちろん、企業の皆様にもラジオ体操やウォーキング、清掃活動など多岐にわたる活動が



角田市チャレンジデー2025の様子

同時多発的に実施されるのです。つまり、個人はもちろん、交流が生まれ何かを始めるきっかけになっています。その変化は、「地域効力感」の向上を生み出しているといっても過言ではありません。「自分たちのまちは自分たちで元気にできる」——その

感覚が、住民の間で確かに育っています。

結果として今年は26036人の対象人口に10113人の参加者、38・8%の参加率となりました。誰かの健康を願って動くという小さな行為が、まち全体の効力感を支えています。それは、人を資本と捉える社会教育の視座を改めて感じます。

かく大學…「学びの関係資本」を育てる（内発的動機の尊重）

角田市のもう一つの実践、「かく大學」は、行政主導ではなく自分たちで学びをつくる場を目指しています。

テーマは「旅」「写真」「里山」など、一見ゆるやかですが、ここには「自分の関心から始める」という強い自発性が大切にされています。参加者は講座の受講者ではなく、共に学びを編集する仲間。好きや関心を持ち寄ることが、学びの出発点となっています。このプロセスそのもの

のが、内発的動機を大切にする社会教育の実践となっています。

行政職員や地域リーダーも、肩書きを外して一人の学び手として関わる。こうした「垂直」ではなく「水平」な関係性が、まちに新しいつながりを生み出していると考えています。それはまるで、人的資本が関係資本に転化していくような過程とも感じとれます。

かく大學は、まちの中に自発性が連鎖する文化を生み出す挑戦とも言えます。それこそが、持続的な人的投資のかたちであり、学びによる地域経営の可能性です。

高校探究…「まちが学び合う組織になる」（心的柔軟性の育成）

角田高等学校と市の連携による地域探究は、若者が地域の課題を自分の視点で探り、解決に向け

た一歩を踏み出す学びです。調査や解決アクションを通して、高校生たちは「まちに関わる自分」を発見していきます。

この探究に社会教育の職員や地域の大人が伴走することで、地域全体が「学び合う組織」と変化しています。高校生の視点に触れた大人たちは、これま



かく大學最終報告会で地域プロジェクト報告をする参加者

で当たり前だと思っていた地域の見方を問い直し、価値観を柔らかに更新し始める姿を目にすることも少なくありません。

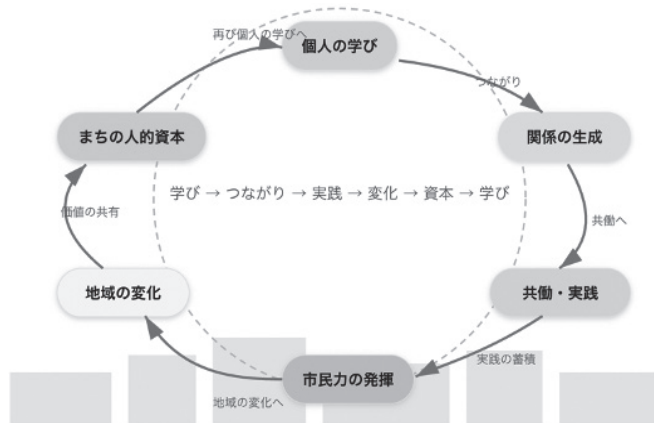
それはまさに「心的柔軟性の育成」であり、異なる世代や立場が共に考える中で生まれる学びとも言えます。

また、市が展開する国内外留学支援事業「そらトビ！かくだ」も、同じ流れの中にあります。高校生が地域を飛び出して国内外で新しい文化や価値観に触れ、その経験を地域に還元していくプロセスは、まさに「学びの越境」と「再接続」の連続です。彼らの語る気づきや挑戦は、地域の大人たちにとっても刺激となり、まちの思考をゆるやかに動かすのだと思います。

若者の学びは、地域の柔軟性を映す鏡。「そらトビ！かくだ」のような地域外への越境と、「地域探究」のような内なる掘り下げの両方が、まちの柔軟性を見出します。つまり、社会教育は



角田高校を飛び出し学ぶ高校生たち



まちの人的資本を育てる循環

こうした心の可塑性をまち全体で保つことに機能し、変化を受け入れながら学び続ける力¹¹地域のレジリエンスの源泉となるはずです。

提案…「社会教育はまちの人的資本と捉えてみませんか」

これらの実践に共通するのは、

- ① 人がまちに関わる「意欲と関係性」（地域エンゲージメント）
- ② 共にできるといいう「集団効力感」
- ③ 「好き」や「関心」を起点にした内発的動機
- ④ 変化に開かれた心的柔軟性と

いう地域レジリエンスの4つが相互に循環していることにあります。

これらを育てる社会教育の働きは、企業の「人的資本経営」に照らし合わせて考えれば、まちにおける「人への投資」であり、地域を経営する視点に立てばこれほど重要なことはありません。つまり、社会教育は「まちの人的資本への投資」として機能し、その仕事は制度の外側で人を支え、関係をつくり、未来への余白を残すこと。という大袈裟すぎるでしょうか。

て形作られています。

住民だけでなく、関係人口や交流人口といった多様な人々が関わり、互いに励まし合い、挑戦し合うことで、豊かな学びが生まれます。こうした「人のつながり」こそが、その地域の貴重な「人的資本」です。

そして、この学びこそが、新しいまちを創造する原動力となります。持続可能な地域社会を築くエンジンは、人的資本としての「市民の力」を大切に見つめ、「まち全体が学び続ける組織である」という理念を実践していくことに他なりません。

次号の「発想する！授業」は中央区の安西さんからお送りする予定です。お楽しみにください。

結び…「人がまちを動かす」

まちには、そこに住む人々、そして関わる人々によつ

宮城県角田市教育委員会生涯学習課主査（社会教育主事）

佐藤克宏

連絡先：syougaku@city.kakuda.lg.jp